門下生と虚刀流と時渡り

柴健

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

門下生と虚刀流と時渡り

【Nコード】

N3819Z

【作者名】

柴健

【あらすじ】

これは刀語12巻のあとの物語り。七花が突然過去の日本にタイムスリップ。過去に帰るための手がかかりを見つけると同時に一人の少年と出会う。そう、これがすべての始まりと知らずに。

序章、いわゆるプロローグ

西暦 20XX年

日本 京都

「ここはどこなんだ？」

青年は一人つぶやいた。

見てくれは、筋肉質の長身、ぼさぼさの長髪、女物の和服、だが十二単をさらに重ねたような派手なものだった。

青年の名は鑢 七花。

知る人は知っている、刀語の主人公である。

「否定姫はどこに行っちゃったんだ。探すのが面倒だ……。」

のんきなことをつぶやきながら青年は、

「待っていれば、あっちが来てくれるかもしれないから、久しぶりに修行でもするか……。」

この青年、どこまでものんきである。

話は変わり……

「ここが京都かー（嬉）」

こちらは一人の少年である。

こちらの見てくれは、中肉な体に、真面目そうな顔つきに、背中にリュックである。

「刀語の1巻の舞台になってるから、七花がいたりして・・・、ないか(悲)」

この少年、いわゆるオタクである。

少年は寺の奥に進んでいく、これがすべての出会いと知らずに・・・

序章、いわゆるプロローグ（後書き）

初めての作品ですが、読んでいただけたら光栄です

第一話 時すでに始まりを刻む 上

「お寺って神秘的だなー。」

そんなことをつぶやきながら少年は奥に進んでいった。

すると、だれもいないはずのところから声が聞こえる。

「……ん、誰か、いる？」

声がするほうに少年は進んでいった。

茂みに隠れながら少年は気付いた。

寺の前でだれかが修行をしている……。

ふと少年はその人物を見ながらある人物の名を思い出す。

「鑓……七花じゃないのかなあ？」

少年はのんきにつぶやきだす……。

この世にいるはずのない人物の名を……。

しかし、主人公にそう思わせたのは目の前にいる人物が叫んでいる
台詞からだった。

「虚刀流、七花八裂！」

そう言つて、七花は空気に技を放ち続ける。七連続の華麗な技だった。

「かつ・・・かつこいい!!」 ガサッ

「・・・誰だ、あんた。」

「あっ。」

ばれてしまった!と少年はあわてた。

一方の青年は、冷静に構えをとっている。

右手を上、左手を下に、どちらも平手の形で。足は、右足を後ろ、左足を前に置き、相手に壁を作るような構え。

それはまるで、格闘ゲームの構えのようなものだった。

「虚刀流、一の構え・・・」「鈴蘭っ!!」

少年は、青年、鑢七花の台詞をきれいに奪い取った、悪気は無く。

「あんた、なんで虚刀流の構えの名前を!？」

七花は少し、あわて気味に聞いてみる。

「そんなの刀語の基本中の基本じゃないですか!」

カタナ・・・ガタリ?なにそれ?

それはですね・・・と七花の疑問すべてに少年は答えた。

余談だが、七花が理解するまでたいへん時間がかかったのは、いうまでもない。

「そうか・・・、この改竄される前の日本の未来では、とがめと俺の一年間が小説になっていたのか。」

「すごい！七花さんのくせに、物分かりがいいですね！」

「・・・あなた、すごく失礼だ。」

七花は呆れるように答える。

「ともかく、ここが違う世界なのはよく分かった。」

「うん、うん。」

「でも、どうやって帰るべきなんだろう・・・？」

何も手がかりはないのだ。

「なんかそれっぽいのないんですか？」

そう言われ、七花は和服の中を探ってみた。

ひらり、と三つ折りの手紙が落ちる。拾ってみるが、

「・・・こんなものを入れた覚えがない。」

広げた手紙の中には何が書かれているんだらうか？

続く

第一話 時すでに始まりを刻む 上（後書き）

ほのぼのと読んでくれると嬉しいです。

キャラ自体がまだ、お笑い系の台詞ばかりなので（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3819z/>

門下生と虚刀流と時渡り

2011年12月13日02時00分発行